

第1学年*組 外国語（英語）科学習指導案

指導者 武藤 元孝

R 2 研修センター長期研修

1 単元名 Daily Scene 4 ウェブサイト

2 本単元の目標

新しく来たA L Tに自分たちの学校を紹介するために、学校行事についての事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> 学校を紹介するための外国語の語彙や表現、文章構成を理解している。</p> <p><技能> 学校行事について、簡単な語句や文を用いて書く技能を身に付けている。</p>	<p>新しく来たA L Tに学校行事について伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。</p>	<p>読み手に配慮しながら、学校行事について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。</p>

4 単元について

(1) 教材観

Daily Scene は、日常の様々な場面におけるコミュニケーション活動を通して、Unit で学んだ言語材料を活用することができる教材で、「話す」技能と「書く」技能を扱うものがある。インターナショナルスクールで学ぶエリカを主人公とし、3年間を通した話になっている。本単元は、彼女がクラスの友達と一緒に、自分たちの学校を紹介するホームページを作る場面である。学校の創立年数や生徒数、教員数、行事などについて紹介する文を書き、学校行事については事実や自分の考え、気持ちと共に表現する。

(2) 生徒観

Presentation 1 「自己紹介」の単元の中で、それまでに学んだbe動詞や一般動詞を使って、自分の好きな食べ物やスポーツ、教科などについて話したり、書いたりする活動を行った。この単元では文章の構成を提示し、一言感想や前の文に関連する文などを加えることを指導した。その後、平成30年度に茨城県で出題された学力診断のためのテストにおける英作文問題を用いて本校第1学年*組の生徒を対象に、実態調査を実施した。15語以上25語以内で好きなものや好きなことについて書き、そのことについてさらに詳しく書くという条件で、多くの生徒が簡単な自己紹介文を書くことができた。しかし、*人中*人は語数が足りず、*人が同じ文構造を羅列し、文と文の相互の関連がない自己紹介文を書いた生徒も

*人いた。また、一つの内容について詳しく書けている生徒は*人とどまっておき、「さらに詳しく書く」という条件を十分に満たしたとは言えず、まとまりのある文章を書くことに課題が残った。また、意識調査により、書くことに進んで取り組んではいるが難しさを感じている生徒が多いことが分かった。これらのことから、トピックについてのイメージを膨らませ、伝えたい内容をできるだけ多く発想することと、既習の表現を用いてどのように内容を整理して伝えればよいかを生徒が知る必要があると考えた。

(3) 指導観

事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く力を育てるために、スモールトークを取り入れたマインドマップの作成と活用を考えた。マインドマップを作成することによって、書きたい内容を想起・連想し、自分の考えなどを整理することができる。また、スモールトークを通し、考えの広がりや気づきを促すことで、英作文で使用できる表現を増やす。初めに、絵や写真などを見て、トピックについてイメージを膨らませながらペアでスモールトークを行う。中間指導の際には、まず、伝えられなかった表現について全体で共有、確認をする。続いて、個々の生徒が話したことを基に自分のマインドマップを作成していく。マインドマップにおいて、語句は英語で書き入れ、線で関連付ける。「いつ」「どこで」「だれと」「どのくらい」など、より詳しい内容になる表現も加える。そして、もう一度会話を行った後、内容のまとまりごとに線で囲んでチャンキングし、書く順序を整理できるよう関連付けられた語句にナンバリングしていき、書く活動につなげる。英文を書く際には、教師は生徒がマインドマップに書き出した語句を基に、どのように書いたらよいかをルーブリックで示す。これは生徒にとって学習成果の目標あるいは規準となる。このような手立てによって、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

5 単元の指導計画（7時間扱い）※○は指導に生かす評価、◎は記録に残す評価を示す。

次	時	学習内容・活動	知	思	態	留意点【評価方法】
1	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">単元の見直しをもち、教科書の内容を理解することができる。</div> 1 単元の目標を知る。 2 教科書のモデル文の構成や内容を理解する。 3 モデル文を音読する。 4 学校の情報を基に、創立年数や教師・生徒の人数等を書く。 5 振り返りを行う。	○			知：学校の情報について英文で書けない生徒には、教科書のモデル文を参考にするよう助言する。 【ノート】
2	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">マインドマップの作成、活用方法を知ることができる。</div> 1 マインドマップについて理解し、自己紹介のマップをスモールトークの中間指導で作成する。 2 これまでの英作文の誤答を基に語順の復習をする。 3 振り返りを行う。	○			知：正しい語順で文を書けない生徒には、複雑な文の主語を明らかにし2文に分けて考えるよう促す。 【ノート】

3	3 4	<p>マインドマップで自分の考えなどを整理し、体育祭についてまとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>1 スモールトークの中間指導でマインドマップを作成する。 2 英作文を書く。 3 振り返りを行う。</p>		○	<p>思：英作文を3文程度書けない生徒には、書けそうなマインドマップのブランチに着目したり、文と文の順序や相互の関連に注意を払ったりするよう助言する。</p> <p>【ワークシート】</p> <p>○ 態：書くことが停滞している生徒には、作成したマインドマップで書けそうな部分を示し、簡単な語句や文を用いて書くよう助言する。</p> <p>【観察、ワークシート】</p>
4	5	<p>合唱コンクールの紹介文を書くためのマインドマップを作成し、自分の考えなどを整理することができる。</p> <p>1 スモールトークの中間指導でマインドマップを作成する。 (1) やり取り①を行う。 (2) シェアリングを行いながら、マインドマップを作成する。 (3) やり取り②を行う。 2 語順の復習を行う。</p>		○	<p>思：マインドマップを埋められない生徒には、イメージが広がりそうなブランチに空の枠を加え思考の手助けをしたり、スモールトークでのやり取りを想起するよう助言したりする。 【ワークシート】</p>
	6 検証授業	<p>1 前次で作成した体育祭のマインドマップや英作文を振り返る。 2 本時の課題を確認する。</p> <p>自分の考えなどを整理し、合唱コンクールについてまとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>3 スモールトークの中間指導でマインドマップの情報の追加・整理をする。 (1) やり取り①を行う。 ・絵や写真による想起 (2) 中間指導でシェアリングを行いながら、前回作成したマインドマップに書き加える。 ・語句の追加 ・ブランチ(線)による関連付け ・接続詞や副詞の追加 ・チャンキング ・ナンバリング (3) やり取り②を行う。 4 英作文を書く。 ・ループリックによる規準の確認 5 振り返りを行う。</p>		◎	<p>思：【ワークシート】</p> <p>○ 態：書くことが停滞している生徒には、作成したマインドマップで書けそうな部分を示し、簡単な語句や文を用いて書くよう助言する。</p> <p>【観察、ワークシート】</p>
5	7	<p>自分の学校の紹介文を書くことができる。</p> <p>1 前時までの学習を基に、学校の紹介文をALTに向けて書く。 2 単元全体の振り返りを行う。</p>	◎	◎	<p>知・思：【ワークシート】</p> <p>◎ 態：【振り返りカード】</p>